

建築設備工事監理報告書

年 月 日

様

工事の監理状況を報告します。
この監理報告書は事実に相違ありません。

工事監理者 () 建築士 () 登録第 号
資格氏名 (印)
建築士事務所名 () 建築士事務所 () 登録第 号 TEL

建築設備に関し 建築設備士 () 登録第 号
意見を聴いた者 (印)
の氏名・勤務先名 () 登録第 号 TEL

概要

建築主氏名							
敷地の地名地番							
確認年月日・番号	年 月 日	計画変更確認	年 月 日	第 号	年月日・番号	第 号	
建築物の名称							
建築物の概要	用途				工事種別		
	階数	建築面積	m ²	延べ面積	m ²		
(建築設備の概要) 該当するものに チェック(✓)する	機械換気設備			給水、排水その他の配管設備			
	感知器と連動して閉鎖する防火設備			避雷設備			
	排煙設備 (自然・機械・押出し)			ガス設備 (3階以上の共同住宅のみ)			
	非常用照明装置			シックハウス対策用換気設備			

注) 計画変更確認年月日・番号は最新のものを記載すること。

1. 機 械 換 気 設 備				6. ダクトの材料とその最大寸法				有 無			
報 告 事 項		状 況 等		7. 延焼の恐れのある外壁の換気孔に設ける防火設備等							
1. 火を使用する室、居室 (1) ファンの種類 ○窓用換気扇、レンジフード等の小型ファン（表1に記載すること） ○フード及びダクトに接続する中・大型ファン（表2に記載すること） (2) ファン及びダクト取付状態、運転状況 2. 直接外気に面しない便所 ○ファン及びダクトの取付状態、運転状況 3. 換気無窓の居室 ○ファン及びダクトの取付状態、運転状況 4. 集会場、劇場等の用途に供する居室 ○ファン及びダクトの取付状態、運転状況 5. 中央管理方式の空調設備による居室 (1) 空調方式〔全空気方式・全水方式・空気-水方式・冷媒方式〕 (2) ダクト及び機器の取付状態 (3) 中央管理システムの監視状況と制御状況		有 無	〔 亜鉛鉄板 (×) ・スパイラル (φ) ・その他 () 〕				有 無				
		良 否	(1) 防火設備の種類 〔 防火ダンパー・防火おおい (100cm ² 以下) ・その他 () 〕				有 無				
		有 無	(2) 大臣認定等				有 無				
		良 否	(3) 検査口及び天井点検口の設置				有 無				
		有 無	(4) 貫通部のモルタルによる穴埋め及び取付状態				良 否				
表1		火気使用箇所		使用器具名と燃料消費量 (kW)		実風量 (m ³ /h)		注1：3、4、5の各換気設備の風量測定結果は様式3に記載のこと。 注2：窓用換気扇については定格風量を記載してもよい。 注3：表2中の係数N(40、30、20)については、H12建告第1826号に規定する排気フードの形状によること。			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				使用器具名と燃料消費量 q (kW)	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				燃料消費量合計 Q = Σ q	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				必要換気量 V = NKQ (m ³ /h)	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				実風量 (m ³ /h)	
表2		火気使用箇所		使用器具名と燃料消費量 (kW)		燃料消費量合計		必要換気量			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		V = NKQ (m ³ /h)			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		Q = Σ q			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		実風量 (m ³ /h)			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		実風量 (m ³ /h)			
表1		火気使用箇所		使用器具名と燃料消費量 (kW)		実風量 (m ³ /h)		8. 防火区画等に設ける防火設備等 (感知器と連動するものについては様式4に記載すること。) (1) 防火設備の種類 〔 防火ダンパー ・ その他 () 〕 (2) 大臣認定等 (3) 検査口及び天井点検口の設置 (4) 貫通部のモルタルによる穴埋め及び取付状態 (5) 防火ダンパー等の作動状況			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				使用器具名と燃料消費量 q (kW)	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				燃料消費量合計 Q = Σ q	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				必要換気量 V = NKQ (m ³ /h)	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				実風量 (m ³ /h)	
表2		火気使用箇所		使用器具名と燃料消費量 (kW)		燃料消費量合計		必要換気量			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		V = NKQ (m ³ /h)			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		Q = Σ q			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		実風量 (m ³ /h)			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)		実風量 (m ³ /h)			
表1		火気使用箇所		使用器具名と燃料消費量 (kW)		実風量 (m ³ /h)		◎指示事項とその手直し経過			
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				使用器具名と燃料消費量 q (kW)	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				燃料消費量合計 Q = Σ q	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				必要換気量 V = NKQ (m ³ /h)	
		火気使用箇所		係数N		理論排ガス量 K (m ³ /kWh)				実風量 (m ³ /h)	

6. 避 雷 設 備

<input type="checkbox"/> 報 告 事 項 JISA4201:1992 (旧JIS)	状況等	<input type="checkbox"/> 報 告 事 項 JISA4201:2003 (新JIS)	状況等
<p>1. 避雷設備の方式</p> <p>〔 直接法・簡略法 ・その他 () 〕</p> <p>2. 受雷部の種類</p> <p>〔 突針・むね上げ導体・独立避雷針・独立架空地線・ゲージ ・その他 () 〕</p> <p>3. 各部の取付状態</p> <p>○接地極の埋設部及び簡略法にあつては鉄骨、鉄筋と避雷導線との溶接部（上部・下部共）の写真の添付</p> <p>4. 離隔距離及び等電位ボンディング</p> <p>○避雷導線は、電灯線、電話線又はガス管等から1.5m以上の離隔</p> <p>○避雷導線から1.5m以内の金属体の等電位ボンディング</p>	<p>良 否</p> <p>有 無</p> <p>良 否</p> <p>良 否</p>	<p>1. 受雷部システム</p> <p>○受雷部 [突針・水平導体・メッシュ導体]</p> <p>○配置 保護角法 [20・30・45・60・60超過]</p> <p style="padding-left: 20px;">回転球体法 [20・30・45・60]</p> <p style="padding-left: 20px;">メッシュ法 [5・10・15・20]</p> <p>○保護レベル [I・II・III・IV]</p> <p>2. 引下げ導線システム</p> <p>○直接法 保護レベルに応じた引下げ導線の平均間隔 (m以下)</p> <p style="padding-left: 20px;">(I 10・II 15・III 20・IV 25)</p> <p>○構造体利用</p> <p>3. 接地システム</p> <p>○接地極 A型接地極 [板状接地極・垂直接地極 放射状（水平）接地極・その他]</p> <p style="padding-left: 20px;">B型接地極 [環状接地極・網状接地極・その他]</p> <p style="padding-left: 20px;">構造体利用接地極</p> <p>○取付け 受雷部及び引下げ導線を堅固に取付け</p> <p>○接続部 [黄銅ろう付け・溶接・圧着・ねじ締め ボルト締め・半田付け・テーパー面接触接続・その他]</p> <p>○材料 気中 [銅・溶融亜鉛めっき鋼・ステンレス鋼・アルミニウム・鉛]</p> <p style="padding-left: 20px;">地中 [銅・溶融亜鉛めっき鋼・ステンレス鋼・鉛]</p> <p style="padding-left: 20px;">コンクリート内 [銅・溶融亜鉛めっき鋼・ステンレス鋼]</p> <p style="padding-left: 20px;">構成部材の状態（寸法・腐食など）</p> <p>○接地極の埋設部及び構造体利用にあつては鉄骨、鉄筋と引下げ導線との溶接部（上部・下部共）の写真の添付</p> <p>4. 離隔距離</p> <p>○受雷部及び引下げ導線と金属製工作物及び電力信号設備等との離隔距離</p>	<p>良 否</p> <p>有 無</p> <p>良 否</p>
注：採用したJIS規格の□を■にすること。			

接地抵抗測定記録 JISA4201:1992 (旧JIS)

○測定日 年 月 日 ○天候 _____

○測定者 氏名 _____ (印)

会社名 _____

○測定値

接地極記号 (右図参照)							
単独接地抵抗値 (Ω)							
総合接地抵抗値 (Ω)							

◎ 指示事項とその手直し経過

○避雷設備概略図

(受雷部、導線、接地極及び外周長を記載すること。)

8. シックハウス対策用換気設備		風量測定記録			測定日 年 月 日							
					測定者 氏名				会社名			
報 告 事 項	状況等	換気 エリア 番号	換気 種別	室名	床面積 A (㎡)	平均天井高 h (m)	気積 V=A×h (㎡)	換気回数 N (回/h)	所要換気量 Q=V×N (㎡/h)	実測風量 (㎡/h)		備考
										給気	排気	
1. 換気計画 ○換気エリア、換気経路、間仕切り建具等の通気性の確認 (※) ※ 換気計画を示した図を添付をすること。	良 否											
2. 換気種別 ○換気方法の種別 (第1種・第2種・第3種) の確認	良 否											
3. 換気回数 ○必要換気回数 (0.3・0.5・0.7回/h) の確認	良 否											
4. 換気設備スイッチの措置 ○常時運転を指示する注意書き等、シックハウス対策用としての配慮ができていないかの確認	良 否											
5. 換気装置の取付状態、運転状況	良 否											
6. 給排気口の状態 ○給排気口の有無、位置、大きさの確認 ○雨除け・虫除け対策の確認	良 否											
7. 換気ダクトの施工状況 ○防火区画貫通措置等の確認 ○ダクト材質の確認	良 否											
8. 換気装置の能力 (風量測定記録) ○次のイ～ハのいずれかの方法により風量を確認し、右風量測定記録の実測風量欄に記入する。 イ. 実測風量測定 ロ. 換気装置ダクト等の圧力損失計算 (計算書、資料の添付) ハ. 定格風量 (カタログ等資料の添付) ※上記ハ. は壁付け換気扇等の場合のみ適用可	良 否											
◎指示事項とその手直し経過												